



青 第 1 7 0 号
令和 5 年 9 月 6 日

埼玉県青少年健全育成審議会
会 長 堀 田 香 織 様

埼玉県知事 大 野 元 裕 (公印省略)

青少年に優良な図書の推奨について (諮問)

埼玉県青少年健全育成条例第 1 0 条の規定により、青少年に優良な図書として別記の図書を推奨したいので、同条例第 2 5 条第 1 項第 1 号の規定により、貴審議会の意見を求めます。

令和5年度 埼玉県推奨図書一覧

諮問番号	部門別	書名	著者名等	発行所	価格(税込)	出版年月	ISBNコード
1690	乳幼児	ぞうさんのおふる	内田麟太郎/さく 村田エミコ/え	童心社	¥1,045	R4.12	978-4-494-01584-9
1691	乳幼児	わらってよピッコ	ルイス・スロボドキン/さく こみやゆう/やく	福音館書店	¥1,430	R4.10	978-4-8340-8682-9
1692	乳幼児	ヨルとよる	あさのますみ/作 よしむらめぐ/絵	教育画劇	¥1,540	R4.9	978-4-7746-2280-4
1693	乳幼児	あなのなかから・・・	さいとうしのぶ/作	あすなろ書房	¥1,320	R4.1	978-4-7515-3068-9
1694	乳幼児	どんぐりころころむし	澤口たまみ/ぶん たしろちさと/え	福音館書店	¥990	R4.10	978-4-8340-8681-2
1695	小学校低学年	すずばあちゃんのおくりもの	最上一平/文 黒井健/絵	新日本出版社	¥1,650	R4.4	978-4-406-06678-5
1696	小学校低学年	ひがたはたからばこ 青いカニみつけた	よしのゆうすけ/写真・文	徳間書店	¥1,870	R4.7	978-4-19-865498-6
1697	小学校低学年	てんてんきょうだい	山田慶太/文 田口麻由/絵	ポプラ社	¥1,320	R5.2	978-4-591-17712-9
1698	小学校低学年	いいー日ってなあに？	ミーシャ・アーチャー/作 石津ちひろ/訳	BL出版	¥1,650	R4.6	978-4-7764-1054-6
1699	小学校低学年	かみなり	妹尾堅一郎/監修	ポプラ社	¥1,760	R4.7	978-4-591-17420-3
1700	小学校中学年	金色の約束	松本聡美/作 黒須高嶺/絵	国土社	¥1,540	R4.11	978-4-337-33656-8
1701	小学校中学年	えんぴつはだまって	あんずゆき/作 たごもりのりこ/絵	文溪堂	¥1,540	R4.11	978-4-7999-0478-7
1702	小学校中学年	寓話に生きた人インソップ -その人生と13の物語-	イアン・レンドラー/文 パメラ・ザガレンスキー/絵 山下愛純/訳	化学同人	¥2,420	R5.2	978-4-7598-2276-2
1703	小学校中学年	戦争をやめた人たち -1914年のクリスマス休戦-	鈴木まもる/文・絵	あすなろ書房	¥1,650	R4.5	978-4-7515-3113-6
1704	小学校中学年	はじめましてのダンネパード	工藤純子/作 マコカワイ/絵	くもん出版	¥1,540	R4.6	978-4-7743-3320-5
1705	小学校高学年	ちいさな宇宙の扉のまえて 続・糸子の体重計	いとうみく/作 佐藤真紀子/絵	童心社	¥1,650	R4.5	978-4-494-02077-5
1706	小学校高学年	わたしとあなたのものがたり	アドリア・シオドア/文 エリン・K・ロビンソン/絵 さくまゆみこ/訳	光村教育図書	¥1,870	R4.6	978-4-89572-289-6
1707	小学校高学年	わたしはスペクトラム	リビー・スコット、レベッカ・ウエストコット/著 梅津かおり/訳	小学館	¥1,650	R4.11	978-4-09-290663-1
1708	小学校高学年	和ろうそくは、つなぐ	大西暢夫/著	アリス館	¥1,650	R4.2	978-4-7520-1004-3
1709	小学校高学年	シリアからきたバレリーナ	キャサリン・ブルートン/作 尾崎愛子/訳 平澤朋子/絵	偕成社	¥1,650	R4.2	978-4-03-726960-9
1710	中学校	バンビー	いとうみく/著	静山社	¥1,375	R4.10	978-4-86389-727-4
1711	中学校	僕らが学校に行く理由	渋谷敦志/写真・文	ポプラ社	¥2,420	R4.8	978-4-591-17423-4
1712	中学校	彼の名はウォルター	エミリー・ロッド/著 さくまゆみこ/訳	あすなろ書房	¥1,760	R4.1	978-4-7515-3074-0
1713	中学校	バスを降りたら	眞島めいり/著	PHP研究所	¥1,320	R5.2	978-4-569-88101-0
1714	中学校	いっしょにいるよ 子どもと裁判に出た犬 フランとハッシュの物語	涌井学/著 NPO法人子ども支援センターつなぐ/原案	小学館	¥1,430	R4.7	978-4-09-227265-1
1715	高校・青年	HAVE PRIDE 生きる！愛する！LGBTQ+ の2300年の歴史	ステラ・A・コールドウェル/著 スー・サンダース/アドバイザー 榎田理絵/訳	合同出版	¥2,420	R4.9	978-4-7726-1495-5
1716	高校・青年	あなたの教室	レティシア・コロンパニ /著 齋藤可津子/訳	早川書房	¥1,760	R4.9	978-4-15-210164-8
1717	高校・青年	マイスマールランド	川和田恵真/著	講談社	¥1,650	R4.4	978-4-06-527617-4
1718	高校・青年	金環日蝕	阿部暁子/著	東京創元社	¥1,980	R4.10	978-4-488-02878-7
1719	高校・青年	ウェルカム・ホーム！	丸山正樹/著	幻冬舎	¥1,760	R4.5	978-4-344-03958-2

令和5年度埼玉県諮問図書審査票

(乳幼児)

諮問番号	図書名等	内容・選定理由	認定基準	推薦の有無
1690	<p>ぞうさんのおふろ</p> <p>童心社</p> <p>内田麟太郎/さく 村田エミコ/え</p>	<p>【内容】 版画のようなタッチで描かれた絵が、文体と合っている。ぞうさんだけでなく、ワニさんもいっしょにおふろに入ること、親子だけでなく、みんなでおふろが楽しめる内容になっている。</p> <p>【選定理由】 登場人物は、ぞうさんだけでなく、ワニさんも描かれている。ワニさんはぞうさんのように、お鼻でシャワーができないけれど、その代わりにバケツを使ってお湯をかけた、交替してみんなで洗いあがりして、親子だけでなく、みんなでおふろが楽しめる内容になっている。また、版画のようなタッチで描かれた絵が、文体と合っている。</p>	(1)ア (3)オ	
1691	<p>わらってよピッコ</p> <p>福音館書店</p> <p>ルイス・スロポドキン/さく こみやゆう/やく</p>	<p>【内容】 いつも悲しそうな顔をしているポニーの「ピッコ」。そんなピッコを元気づけるため、兄妹が奮闘するお話。人参、おもちゃ、お花等、あらゆる手でピッコを喜ばせようとする二人の会話はどこかユーモラス。最後にはびっくりするような手段も取り、ピッコが嬉しそうな様子を見せる終わり方は読み手も満足できる結末となっている。</p> <p>【選定理由】 ピッコを笑顔にするために奮闘する兄妹の思いやりがよく伝わってくる1冊。ピッコがどうしてそんなに悲しそうなのか、ピッコの心情に思いをはせ、色々な方法を模索する一生懸命な兄妹の姿に共感し、応援したくなる。最後にはピッコも嬉しそうな様子を見せてくれて、読み手も満足感で満たされるラストになっている。</p>	(1)ア (1)イ (2)ア	
1692	<p>ヨルとよる</p> <p>教育画劇</p> <p>あさのますみ/作 よしむらめぐ/絵</p>	<p>【内容】 外に出たことがない黒猫の「ヨル」と、家で暮らしたことがないネズミ。二人は「夜」について話すも、相手のいうことが理解できない。そこで、自分の知っている「夜」を相手に案内する。生活や姿かたちのまったく異なる二人が、それぞれ初めての「夜」を体験・共有する姿は可愛らしく、微笑ましい。途中ハラハラする場面を挟みつつも全体的にゆったりとした、夜の雰囲気そのまま伝わる物語となっている。</p> <p>【選定理由】 姿かたちや立場が全く異なる二人が、それぞれの「夜」を体験・共有する姿はほほえましい。また、絵と物語がよく合っており、双方の良さがしっかりと活きている。物語が進むにつれて二人がいろんな夜、いろんな人間がいることを知り、それを認め、素敵だと思ひ合える気持ちが丁寧に落とし込まれている。</p>	(1)ア (2)イ	
1693	<p>あなのなかから…</p> <p>あすなろ書房</p> <p>さいとうしのぶ/作</p>	<p>【内容】 色々な場所の穴の中から色々なものが飛び出してくる。「いないいないばあ」の感覚に近いが、それよりは勢いがあり、めくって驚くこともしばしば。毎回ある「あなのなかから…」の場面では、何が出てくるのだろうというワクワク感がある。絵はどこかひょうきんさを感じられ、この絵本にぴったり合っている。</p> <p>【選定理由】 黒い穴の中から次々と飛び出してくる動物たちはユーモラスな表情で、驚かされた側との対比がおもしろい。また、ばあ！という表現が繰り返され楽しい。森の中や家の中など、シチュエーションはさまざま、次は何が出てくるのか、想像力が育まれる絵本である。</p>	(1)エ (2)ア	
1694	<p>どんぐりころころむし</p> <p>福音館書店</p> <p>澤口たまみ/ぶん たしろちさと/え</p>	<p>【内容】 秋の林で見つけたどんぐりが主題となっている。写実性がありながらも温かみのある画風。文章もやわらかく、聞き心地がとても良い。また、どんぐりを観察する様子が丁寧に描かれており、実生活にも結びつく内容となっている。秋にぜひ紹介したい1冊。</p> <p>【選定理由】 表紙の絵が、大きなどんぐりに黒い穴があいていて、中には何があるのか？と、とても興味がわく構図になっている。 子供たちにも身近などんぐりが題材になっており、親しみやすい。自然に関心を持ち、生き物を大事に思う心を育める絵本。また、自然や生き物を観察することで発見や疑問が生まれ、自分で考えるきっかけを与えてくれる。</p>	(1)イ (2)ア (3)ア	

令和5年度埼玉県諮問図書審査票

(小学校低学年)

諮問番号	図書名等	内容・選定理由	認定基準	推薦の有無
1695	新日本出版社 最上一平/文 黒井健/絵	【内容】 最初の夜の雪の場面から一変して春の花々が咲いている明るい場面に変わり、途中戦争の暗い場面が挟まり最後にはまた花々が咲き乱れる場面、という話の構成がとてもよくできている。すずばあちゃんの戦争での深い悲しみの気持ちが描かれてはいるが、物語全体を包み込むすずばあちゃんの育てた花々の美しさが、その悲しみを大きく包み込んでいる。黒井健さんの描いた花々の絵が、何にも代えがたく美しい。 【選定理由】 戦争によって家族を失う悲しみは、何十年経っても癒えることはなく、深い悲しみの記憶として人の心の中に残るものである、ということがすずばあちゃんの「花の種をまき続ける」という行為からメッセージとして伝わってくる作品となっている。戦争体験が、孫の淳平に語りかける形で記述されているため、小学校低学年の子供たちにも理解しやすい。孫の淳平の花をみつめる仕草に、すずばあちゃんを思いやる優しい心遣いが窺われる。	(1)イ (2)イ	
1696	徳間書店 よしのゆうすけ/写真・文	【内容】 西表島の干潟に住むシオマネキの暮らしの様子を中心に、小さな生き物たちの生活の様子が生き生きと紹介されている。ページをめくるごとに登場するカニのひょうきんなしぐさや色の鮮やかさに目を奪われる。 【選定理由】 干潟に潜む一匹のカニの説明に始まり、青いカニ、そしてたぐさんのカニの登場と、内容構成にメリハリと工夫があり、子供の興味を引き付ける。文体についても説明している部分の文体をですます調とし、本文と変化をつけることでメリハリが生まれている。シオマネキが正確に潮の満ちてくる時刻を理解して活動しているというところから、大自然の営みや小さな生き物の姿から学ぶことは多い、ということに気付くことができる作品である。	(3)ア	
1697	ポプラ社 山田慶太/文 田口麻由/絵	【内容】 理屈なく、楽しく読める本。最後の「きゆうきゆうしゃ」に「てんてん」をつけて「ぎゆうぎゆうしゃ」にするところなど、おもしろくて、よく考えられている。この本を読んだあとには、いろいろな言葉に「てんてん」をつけてみたいくなる。音読してあげても盛り上がる。親子でも楽しく読める。発想も広がる。 【選定理由】 普段何気なく使っている言葉に、「てんてん」(濁点)をつけるだけで、あっという間に違うものに変身してしまう。たったそれだけのことなので、ページをめくる前から答えはわかってしまうのに、それでもページをめくって言葉が変身すると子供たちはとても盛り上がる。そして「てんてんきょうだい」と一緒に叫ぶ。「てんてん」によって言葉が全く違うものに変身してしまうことに気づかされ、そのおもしろさに脱帽する。	(1)エ	
1698	BL出版 ミーシャ・アーチャー/作 石津ちひろ/訳	【内容】 幼いダニエル君が、様々な人の「いい一日」について、話を聞いていく。全体を貫いている明るい雰囲気や、前向きな内容に好感がもてる。読み終わった後に「あなたにとっていい一日は？」というように話を広げることでもできる。絵も油絵とコラージュを合わせたタッチでとても工夫されている。登場する人物の表情も笑顔があふれていてよい。 【選定理由】 誰でも一日をいい気持ちで過ごしたいと思うけれど、改めて「いい一日ってどんな一日だろう」と考えるきっかけになる本である。ダニエルという少年が、彼を取り巻く人々に「いい一日ってなあに？」と聞いてまわると、返ってくる答えはまちまちで、それぞれ人によって違うものだ、ということにも気づかされる。登場人物のまなざしがとても温かく描かれていて、この本を読んだ子供たちの毎日が、幸せであるようにという作者の気持ちが伝わってくる。	(1)ウ (3)オ	
1699	ポプラ社 妹尾堅一郎/監修	【内容】 一枚一枚のかみなりの写真が美しく迫力。飛行機に落ちるかみなりや、火山の火口に轟くかみなりなど、初めて見るような写真も多いので、子供たちも興味をもって読みすすめることができる作品となっている。最後にかみなりについての説明が書かれているが、説明の量もたっぷりと書かれているので、科学的な資料としても活用することができる。 【選定理由】 前半は雷の写真が中心で、後半は仕組みや身を守る方法等説明が書かれている。かみなりの写真が非常に美しく、迫力がある。日頃目にしない写真も多く掲載されていて、興味深く読み進めることができるし、自然の力に圧倒される。昔の人が、「かみなりは、空にすむ神様がこって鳴らすもの」と考えていたという伝承も紹介されていて、普段忘れてしまいがちな自然に対する畏怖の気持ちと呼び起こされる作品である。	(3)ア	

令和5年度埼玉県諮問図書審査票

(小学校中学年)

諮問番号	図書名等	内容・選定理由	認定基準	推薦の有無
1700	金色の約束 国土社 松本聡美/作 黒須高嶺/絵	【内容】 小2の時に仲違いしてしまった光輝と智彦が、よく一緒に遊びに行っていたあずま屋のじいちゃんから遺された手紙や道具をもとに、砂金探しを通して心を通わせていく話。だんだんと昔のように話せるようになり、各々互いを羨む気持ちを吐き出し、わだかまっていたものが消えていく展開に爽快さを感じる。主人公は小5だが、友達への複雑な思いや環境の変化など中学年でも共感できる部分は多く、じっくり読むことができ読み応えがある。 【選定理由】 家庭環境や境遇の違いをきっかけに仲違いしていた小5男子2人が再び歩み寄るまでの過程がとて丁寧に描かれている。途中、相手の成長に戸惑い、葛藤する中で、砂金探しという1つの「冒険」を通して、互いのわだかまりが解け、それぞれが相手を羨むのではなく、自分の今ある状況を受け入れ、未来へ向かって進んでいこうとする前向きな終わり方に非常に好感がもてる。読後感のよさが、読者の背中を押してくれるだろう。	(2)ア (2)イ	
1701	えんぴつはだまっ てて 文溪堂 あんずゆき/作 たごもりのりこ/絵	【内容】 エリカは学校でつくも神のついたえんぴつを拾う。はじめは不気味がっていたが、だんだんと距離を縮めていく。えんぴつのつくも神が関西弁でテンポがよく、面白い。もしかしたら、自分の持ち物にもつくも神が…と、ものを大切にしよう、という気持ちが自然に芽生える作品。登場人物たちもそれぞれユーモアがあって、単純でどこか可愛げがあり、親しみが湧く。絵に若干古さがあると感じたが、その画風が作品と合っている。面白くて、続編が読みたいくなる。 【選定理由】 コメディタッチな登場人物に加え、日本独特の付喪神を題材にした、「物を大切に」という主題がはっきりとしている作品なので、とても読みやすく、面白い。そのため、低学年向けの短いお話から、少し長さのある物語への橋渡しに適した作品である。作中、校内にある付喪神のついた「ガラクタ」が処分されないよう、主人公たちが考えを出し合い、奮闘する場面が描かれる。この本を読み、社会のためにできることはないか、と考える力を養ってほしい。	(1)ア (3)オ	
1702	寓話に生きた人イ ソップ —その人生と13の 物語— 化学同人 イアン・レンドラー/文 パメラ・ザガレンス キー/絵 山下愛純/訳	【内容】 2500年以上語り継がれるイソップ寓話は、どんな人が作ったのだろうか。古代ギリシアで奴隷として生まれ、才能によって自由を手に入れたイソップの人生物語。イソップ寓話の起源や、なぜイソップ寓話が後年まで語り継がれたかが分かりやすく描かれている。イソップ童話を知っている子も、より学ぶことができる作品である。 【選定理由】 イソップ寓話自体は非常に有名であり、教訓めいた話として耳にしたことがある児童が多いだろう。しかし、イソップが何者なのか、なぜイソップ寓話が生まれたのかはあまり知られていない。この本は美しいイラストと共に、そのルーツに興味関心を芽生えさせてくれる。そして、現代の我々にも通ずる、イソップがそれぞれの寓話に込めた思いを読み取り、それらを人生の道しるべとして、生かしてってもらいたい。	(2)ア (2)イ (3)ア	
1703	戦争をやめた人た ち —1914年のクリスマ ス休戦— あすなろ書房 鈴木まもる/文・絵	【内容】 第一次世界大戦が始まって5ヶ月後の12月24日。国境の最前線でイギリス軍の兵士たちは、敵対するドイツ軍の塹壕から聞こえる歌声を聞く。戦争の最中、敵対する二つの国の兵士たちが共に歌い、サッカーを楽しむ、そしてまた戦争へと戻っていく……戦場で本当に起こった出来事を描いた物語。戦争とは何か、平和とは何か、改めて今考えていくための手助けとなる一冊。戦争を描いた絵本であるが、やわらかい絵で表現されていて色の使いわけも効果的である。 【選定理由】 子供たちにとって、戦争は遠いところで起こっていることで、多くの子供はなんとなく怖くて悲しいものだという漠然としたイメージをもっている。しかし、この物語を読むことで、前線で戦っている兵士たちも自分たちと同じようにクリスマスを祝い、サッカーを楽しむ普通の人であることに気付かされる。第一次世界大戦中に本当にあった出来事だということにより説得力が増し、平和の大切さについて考えさせられる。	(1)イ (3)ウ (3)エ	
1704	はじめましてのダ ンネバード くもん出版 工藤純子/作 マコカワイ/絵	【内容】 蒼太のクラスにやってきたのはネパールからの転校生・エリサ。言葉や文化の違いからなかなかクラスに馴染めないエリサとどう関わっていくべきか悩む蒼太だったが、商店街のお店を手伝う「弟子入り体験」をきっかけに、二人の関係は大きく変わっていく。相手を知ることによって理解が深まり、蒼太自身の成長にもつながる物語で読後感がさわやか。外国籍児童がより身近な存在となっている今、子どもたちにもぜひ読んでほしい一冊である。 【選定理由】 外国からやって来た日本語があまりわからない転入生に、先生も子供もどう接するべきか戸惑い、悩むところから物語が始まる。外国籍の子供が置かれている現状がよくわかり、身近に同じような友達がいる人はもちろん、いない人にもぜひ読んでほしい。学校や家庭に対する考え方や文化の違いはあっても、お互いのことを知ることでわかり合うことができるということを教えてくれる物語である。	(1)ア (3)ウ (3)エ	

令和5年度埼玉県諮問図書審査票

(小学校高学年)

諮問番号	図書名等	内容・選定理由	認定基準	推薦の有無
1705	ちいさな宇宙の扉のまえで 続・糸子の体重計 童心社 いとうみく/作 佐藤真紀子/絵	【内容】 細川糸子と同級生の、転校生日野恵、町田良子、坂巻まみ、滝島径介、この5人の視点で語られるオムニバス。5つの物語。それぞれが抱える高学年にあると思われる等身大の悩みが読者の共感を呼ぶ。『続・糸子の体重計』という副題が付いているが、前作を知らなくても楽しめる短編集となっている。 【選定理由】 学校には様々な子がいて、価値観が違ったり誤解があったりする。それを乗り越えたり受け入れたりしながら大人になっていく様子を丁寧に描いている。自分の身近に起こりうる問題を、読みながら一緒に悩み、一緒に考えることのできる一冊。小学校高学年の子供たちにぜひ読んでもらいたい。	(1)ア (2)イ	
1706	わたしとあなたのものがたり 光村教育図書 アドリア・シオドア/文 エリン・K・ロビンソン/絵 さくまゆみこ/訳	【内容】 長年の課題である人種差別問題。奴隷制の歴史や公民権運動など、差別解消のための学校での授業が、無意識に人種差別意識を生み出していた。差別されながらも立派に成長した母が、娘に、「周りの目を気にするのではなく、自分らしくあることの大切さ」を伝えている。人種差別に限らず、人と違うということに自信を無くしている若者に向けたメッセージが感じられる作品である。 【選定理由】 人種差別問題について、知ったり考えたりするきっかけとなる。また、自分たちには大きな可能性が秘められていて、望めば何にでもなれる。自分に自信をもってほしいという作者からのメッセージを、たくさんの子供たちに受け取ってほしい。	(1)ア (2)イ (3)ウ (3)エ	
1707	わたしはスペクトラム 小学館 リビー・スコット レベッカ・ウエストコット/著 梅津かおり/訳	【内容】 空気が読めずこだわりが強い10歳の女の子タリーは、自分の中のままならない衝動の原因が自閉スペクトラム症にあることを知る。悩みもがき葛藤を乗り越えながら自分らしく生きる道を見つけた当事者による創作物語である。 【選定理由】 一口に、「自閉スペクトラム症」と言っても、人それぞれ皆違う。タリーの基準が他の子供に当てはまるわけではないが、自閉症スペクトラム症を理解する第一歩になるはず。「ふつう」とは何かを考えさせられる。ありのままの自分を受け入れて生きることを応援してくれる物語である。	(1)ウ (2)イ (3)エ	
1708	和ろうそくは、つながぐ アリス館 大西暢夫/著	【内容】 和ろうそくは、ふだん見ている西洋ろうそくと違う作り方であることに驚くと同時に、和ろうそくを作る工程で出る物が他の伝統工芸品とつながっていることにも驚く。「ここで捨てるものはひとつもないんです。昔の人は本当によく考えていますね。」作者が言う通りだ。 【選定理由】 一つも無駄にすることなく素材を利用して、和ろうそくを作り上げる。この素晴らしい日本の伝統が、今後もずっと受け継がれていくことを願ってやまない。子供だけでなく、大人にも手に取って読んでもらいたい一冊である。	(3)ア (3)イ	
1709	シリアからきたバレリーナ 偕成社 キャサリン・ブルートン/作 尾崎愛子/訳 平澤朋子/絵	【内容】 報道されるシリア難民の実態がよくわかる物語。主人公がバレーで生きる希望を見出すことができ、過酷な運命だけで終わらないところもよい。どん底の中、はい上がる強さを見せてくれるアーヤに勇気をもらえる。バレーで希望を見出し、温かい人たちに囲まれて、幸福な未来が見えるアーヤは幸せだ。 【選定理由】 どんなに辛い状況でも、生きて欲しい！希望を捨てず、あきらめずに生きていくことの大切さを教えてくれる一冊である。内戦から逃れてやっとの思いで生活している人々がいるという現実を知るきっかけにもなる。	(1)ア (2)イ (3)ウ	

令和5年度埼玉県諮問図書審査票

(中学校)

諮問番号	図書名等	内容・選定理由	認定基準	推薦の有無
1710	バンピー 静山社 いとうみく/著	【内容】 母親を病気で亡くし、頼りの父親は行方不明。3人の妹たちの面倒を見ながら学校に通う高2の成。ある日妹が万引きしたというので行ってみると、そこにいたのは見ず知らずの女子高生。彼女は、自分が母親違いの妹であると言い始め…。ドタバタ喜劇で楽しく読め、文章はスマートでわかりやすい。主人公の頑張りが読み手をひっぱり、家族とは何かを訴えてくる力のある作品である。 【選定理由】 親しみやすい装丁と文体だが、家族とは何か考えさせる内容である。	(1)ア (2)イ	
1711	僕らが学校に行く理由 ポプラ社 渋谷敦志/写真・文	【内容】 紛争、貧困、災害など、「学校に行くのが当たり前」ではない世界で生きる子供たちをフルカラーの写真とともに紹介している。逆境に負けず、学校、家族や子供のための居場所に希望を見出し、成長していく子供たちの姿に心打たれる。 【選定理由】 「学校に行くのは当たり前」ではない世界の実情を知ること、「なぜ学校に行くのか」、「何のために学ぶのか」、そして「学ぶことの意義」について考えさせられる。また、紛争、飢餓、貧困、児童労働など子供たちから学びの機会を奪っている世界の実情を知ることができる。	(2)イ (3)ウ	
1712	彼の名はウォルター あすなる書房 エミリー・ロッタ/著 さくまゆみこ/訳	【内容】 遠足の途中でバスが故障し、近くにあった洋館に避難することになったコリンたちは、机に隠されていた一冊の本を見つける。タイトルは「彼の名はウォルター」。その物語を読み進めるうちに周囲で不思議な出来事が起こり始める。 作中作が効果的で、主人公たちが読み進めていくうちに、そこに描かれているのはこの洋館でかつて起きた驚愕の真実であることが分かる。ホラーと思いきやミステリーで、読みごたえがある。 【選定理由】 二つの物語が相互に絡み合い、そこでかつて起こった驚愕の真実が明かされる。読みごたえがあり、物語を読む醍醐味を堪能できる。	(1)エ	
1713	バスを降りたら PHP研究所 眞島めいり/著	【内容】 中学受験に合格して希望の中学に通う奈鶴は、通学のバスの中で出会う一人の男子が気になっていた。だがその男子・律は、奈鶴の通う中学に受験で失敗しており、その学校の制服を着ている奈鶴を見るたびに劣等感を感じていて…そうした心情は中学生にマッチすると感じる。淡々とした物語だが、印象に残る作品である。 【選定理由】 羨望や劣等感など、若い読者なら誰もが抱くであろう悩みについて、同年代の登場人物たちを通じて考えさせられる。	(2)イ	
1714	いっしょにいるよ 子どもと裁判に出た犬 フランとハッシュの物語 小学館 涌井学/著 NPO法人子ども支援センターつなぐ/原案	【内容】 虐待などの証人として裁判に出る子供に寄り添う「付添犬」について、日本に導入した人々の奮闘を描いた、実話をもとにした物語。犬が付き添うことで、虐待の記憶に苦しんでいる子供たちが調査官との面談や裁判で証言を始めた姿を感動的に描いている。 【選定理由】 虐待の記憶に苦しんでいる子供たちに寄り添い、支える「付添犬」の導入に向けて関係者の奮闘する姿が読者に響く。また、虐待の問題を考えるきっかけにもなる。	(1)ア (1)イ (2)ア	

令和5年度埼玉県諮問図書審査票

(高校・青年)

諮問番号	図書名等	内容・選定理由	認定基準	推薦の有無
1715	HAVE PRIDE 生きる！愛する！ LGBTQ+ の2300年 の歴史 合同出版 ステラ・A・コールド ウェル/著 スー・サンダース/ア ドバイザー 榎田理絵/訳	【内容】 当事者も、非当事者も、自分や他者を知る手掛かりになる本。痛めつけられてきた歴史を概観し、ヘイト・クライムは終息してなどいない現状をしっかりと訴える。トランス女性を狙った殺害事件、自死に追い込むSNSでの誹謗中傷の過酷さ、アメリカ・フロリダ州で「ゲイと言ってはいけない法(Don't Say Gay)」が成立してしまうなど、性的マイノリティへのバックラッシュが加速する今、ダイバーシティの推進と当事者へのエンパワーメントにつながる。 【選定理由】 令和2年度に実施した埼玉県多様性を尊重する共生社会づくりに関する調査では、3.3%の方が自らが性的マイノリティであると回答している。令和4年度には「埼玉県性の多様性を尊重した社会づくり条例」が施行された。本書はLGBTQ+の歴史のほか、当事者インタビューも掲載されており、LGBTQ+に対する理解を深めるきっかけとなるにふさわしい本である。	(1)ア (2)イ	
1716	あなたの教室 早川書房 レティシア・コロンバ ニ/著 齋藤可津子/訳	【内容】 国際理解・女性の人権理解に適している。インドのカースト制度に人生を縛られる実情を懸命に伝え、打開策を提案しようとする姿勢に好感が持てる。 【選定理由】 インド国内における女性の生きづらさ、困難さがリアリティをもって描かれている。国際感覚を養い国際理解に役立ち、人間としての在り方生き方を考えるきっかけとなる本である。	(2)イ (3)ウ	
1717	マイスマーランド 講談社 川和田恵真/著	【内容】 川口在住のクルド人を主人公とした移民・難民問題をテーマとした話。迫害により故郷を追い出されること、家族から期待される民族としてのアイデンティティと日本社会での生活の軋轢、日本での難民認定制度の過酷さなどを高校生目線で描く。県境を越えることすら自由に行えない人が同じ日本で暮らしていることを想像してほしいと思う。異文化理解としても入りやすい作品である。 【選定理由】 身近に取り上げられることが多いクルド人の移民・難民問題に焦点を当てたストーリーが多様性を理解し、共生意識を高める。本書を読むことによって思いやりや社会性、倫理観や正義感を養うことにつながる。	(1)ウ (3)エ	
1718	金環日蝕 東京創元社 阿部暁子/著	【内容】 犯罪行為をテーマに据えたミステリー。特殊詐欺にあっけなく加担してしまう状況や、後ろ暗いやり方でしか解決できなかった様々な被害を描く。司法や「正義」が必ずしも自分や家族の苦しみを解決してはくれないと語りながら、しかし犯罪行為を美化せず、暗い方へ落ちかかる人を引き留めるための物語。人生にどうにもならない影があっても、どうにかしようと支えてくれる人がいること、影に負けない自分を信じてゆくことの勇気を称える。小説としての読み応えも抜群。 【選定理由】 表紙のイメージからはストーリーの想像をしにくいのが、テーマのわりに文体が軽快で読みやすい。特殊詐欺に加担する若者が出てくるが、生活苦などやむにやまれない事情に絡めとられて巻き込まれている事情が犯罪をした者への同情を誘う。決して犯罪行為を美化せず将来への希望を持てる内容である。	(1)ア (4)ア	
1719	ウェルカム・ホーム！ 幻冬舎 丸山正樹/著	【内容】 著者の経験も踏まえながら、外からは見えづらい介護業界を理解できる内容となっている。テンポよく読みやすく笑いを含みながら、介護士の激務に合わせ職場待遇を繰り返し描くなど、批判の目が確か。ラストの事件のはっちゃけぶりが非常に物語であるが、それはフィクションだからこそ可能な「反抗」で、そこが面白い。 【選定理由】 介護業界の仕事について、テンポよく理解しやすいストーリー展開で紹介。入所者の気持ちや入居者家族の思いなど人間の尊厳をうかがい知るきっかけになる。周囲の介護に対するイメージや反応といった現実を含みながら、介護業界の激務ぶりや職場待遇についての批判を交え、それでも主人公が成長し仕事への情熱を持って取り組む姿などに心打たれた。	(1)ウ (2)イ	